

現代法律學全集 25

刑法總論〔第三版〕

莊子邦雄

現代法律學全集 25

現代法律学全集 25

刑法総論〔第三版〕

東北大学名誉教授

莊子邦雄 著

青林書院

著者紹介

莊 子 邦 雄 (しょうじ くにお)

大正9年9月16日生 九州大学法学部卒 法学博士
九州大学法学部助教授, 北海道大学法学部助教授,
同教授, 東北大学法学部教授を経て定年退官のち,
東北大学名誉教授, 札幌学院大学長, 同大学名誉教授。

主要著書

『労働刑法』(総論) [新版] (有斐閣), 『刑法の基礎理論』(日本評論社), 『刑罰の理論と現実』(編著, 岩波書店), 『犯罪論の基本思想』(有斐閣), 『近代刑法思想史序説』(有斐閣), 『近代刑法思想史研究』(NTT出版), 注釈『特別刑法』全8巻10冊 (共編著, 立花書房), 『刑法における故意・過失の研究』(カール・エンギッシュ, 小橋安吉と共訳) (一粒社)

検印廃止

刑 法 総 論 [第三版]

《現代法律学全集25》

製 製 本 本	本 文 整 版	函 本 刷 版	高 田 中 製 本 印 刷 株 式 有 限 公 司	明 和 印 刷 株 式 有 限 公 司	明 和 印 刷 株 式 有 限 公 司	郵 便 番 号 一 一 三	電 話 〇 三 三 八 一 五 五 八 九 七	振 替 〇 〇 一 〇 九 一 六 九 二 〇	東 京 都 文 京 区 本 郷 六 四 七	發 行 所 株 式 有 限 公 司	青 林 書 院	發 行 者 逸 見 俊 吾	著 者 莊 子 邦 雄	一 九 九 六 年 三 月 八 日 第 三 版 第 一 刷 發 行	一 九 九 六 年 二 月 二 〇 日 第 三 版 第 一 刷 發 行	一 九 九 〇 年 八 月 三 〇 日 新 版 第 一 刷 發 行	一 九 八 〇 年 一 月 二 五 日 初 版 第 二 刷 發 行	一 九 六 九 年 三 月 三 一 日 初 版 第 一 刷 發 行
---------	---------	---------	---------------------------	---------------------	---------------------	---------------	-------------------------	-------------------------	-----------------------	-------------------	---------	---------------	-------------	-----------------------------------	-------------------------------------	-----------------------------------	-----------------------------------	-----------------------------------

落丁・乱丁本はお取り替えいたします。

©1996, Kunio Shoji Printed in Japan

ISBN 4-417-00954-6

「第三版」はしがき

本書「新版」第一刷を刊行してから、はや十五年を経過したが、八百頁を超える旧版『刑法総論』を世に問うてから数えれば、三十年になんなんとする。この三十年間、絶えず年ごとに刊行を重ねて現在に至ったことに對し、数多くの読者に心からの感謝の念を捧げたい。

このたび、思いも掛けず、刑法口語化を中心とした「刑法改正」を機縁として、本書の全面改訂を出版社より求められるという好運に恵まれた。そこで、「刑法改正」の面に関しては完全な改訂を施し、「判例」に關しても約三百例の補充を行なった。また、最近刊行した『近代刑法思想史研究』の成果を踏まえ、「思想史」の角度からの改訂も試みた。だが、刑法総論における「根本思想」は、もとより、そのまま維持した。

このたびの刊行に際しても、数多くの人々の温かい指導・援助を受けたが、なかでも、東北大学岡本勝教授をはじめとして、福岡大学福山道義教授、神奈川大学山火正則教授、山形大学北野通世教授には、特にお世話になった。また、青林書院逸見俊吾社長、同宮根茂樹編集部員には、何くれとなく助力を得た。ここに記して謝意を表する次第である。

一九九六年一月九日

莊子邦雄

「新版」はしがき

旧著「刑法総論」を刊行してから、はや十数年となる。その間、さまざまな疑問や反省を機縁とし、その都度、考察を加えてきたが、「犯罪論の基本思想」を刊行することによって、さらに、犯罪論の基礎的部分についての根本的吟味を試みた。たとえば、違法と責任との関連につき、また、期待可能性の問題につき詳細な検討を行なった。そこで、「基本思想」の刊行と同時に、「刑法総論」を完全に書き改めることが学問的な義務であると感ずるに至った。したがって、本書は、旧著の改訂版というよりは、むしろ、全く新たな装いをこらした「新版」と呼ぶ方が適切である。もとより、本書においても、旧著において強調した従来のオーソドックスな犯罪論体系の再構成に意を注いだし、また、実務における知見の結晶である判例に強い関心を抱いて展開したが、しかし、旧著にも増して、犯罪論体系の再構成を徹底すると同時に、判例については、批判的検討を加えることに主眼を置いた積りである。多くのひとびとから、実のある批判を受けることができれば、誠に幸いである。近代刑法学の祖フォイエルバッハは、弱冠二十四歳にして「省察」二巻を世に問い、真実を真実とし、誤謬を誤謬とすることは学問の精髓であると主張し、当時支配していた偏見と戦い、刑法学の基礎を確立した。本書における誤謬は誤謬とし、率直に反省しなければならない。

本書を刊行するにあたっては、多くのひとびとから数多くの好意を受け、援助を受けた。特に、東

北大学法学部助教授岡本勝氏は、積極的に文献の補充を試みってくれた。また、神奈川大学法学部教授山火正則氏は校正を、岩手大学人文社会科学部教授大嶋一泰氏は事項索引を、福岡大学法学部教授福山道義氏は判例索引を引き受けてくれた。さらに、青林書院新社社長逸見俊吾氏ならびに取締役足助正策氏は、思いがけず延引に延引を重ねた原稿の完成に対して、破格の温情を示し積極的協力を惜しまなかった。ここに深く謝意を表する次第である。

昭和五十六年八月三一日

莊子 邦雄

凡例

一 法令の略語 法令の引用については、左にかかげた略語例以外は、法令名をそのまま用いた。

刑法	刑法	盗犯防止法	盗犯等ノ防止及処分ニ関スル法律
刑法施行法	民訴	民法	
刑事訴訟法	民訴	民事訴訟法	
憲法	勞基法	労働基準法	
国家公務員法	勞組法	労働組合法	
地方公務員法	勞調法	労働関係調整法	
少年法			

二 判例の略語 引用の判例については、左の略語例を用いた。

大審院	大審院	(大判)刑集	大審院刑事判例集
最高裁判所	最高裁判所	(最判)刑集	最高裁判所刑事判例集
高等裁判所	高等裁判所	高刑集	高等裁判所刑事判例集
地方裁判所	地方裁判所	高裁特	高等裁判所刑事裁判特報
支部	支部	高刑特	高等裁判所刑事判決特報
判決	判決	東高刑時報	東京高等裁判所刑事判決時報
決定	決定	下刑集	下級裁判所刑事裁判例集
大審院刑事判決録	大審院刑事判決録	判決全集	大審院判決全集

凡例

裁判集刑	最高裁判所裁判集刑事	新 聞	法律新聞
刑 裁 資	刑事裁判資料	評 論	法律評論
時 報	裁判所時報	家 裁 月 報	家庭裁判月報
判 時 報	判例時報	タ イ ム ズ	判例タイムズ

三 文献の略語

(a) 左記の文献のうち、略記して引用したものは、下段にかかげた。

青 柳 文 雄	刑法通論Ⅰ・総論（一九六五）	青 柳
朝 倉 京 一	刑法総論（一九九三）	朝 倉
板 倉 宏	刑法総論（一九九四）	板 倉
市 川 秀 雄	刑法総論（一九五五）	市 川
井 上 正 治	刑法学（総則）（一九五二）	井 上
植 田 重 正	刑法要説（総論）（一九六六）	植 田
植 松 正 正	再訂刑法概論Ⅰ・総論（一九七四）	植 松
植 松 正 正	再訂刑法概論Ⅱ・各論（一九七五）	植 松・各論
内 田 文 昭	刑法Ⅰ（総論）（一九七七）	内 田
内 田 文 昭	刑法各論上巻（一九七九）、下巻（一九八一）	内 田・各論
大 塚 仁	特別刑法（一九五九）	
大 塚 仁	刑法概説（総論）（増補版・一九七五）	大 塚
大 塚 仁	刑法概説（各論）（一九七四）	大 塚・各論
大 塚 仁	注解刑法（増補第二版・一九七七）	大 塚・注解
大 塚 仁	刑法総論上巻（一九二二）、下巻（一九二七）	大 塚
大 塚 仁	刑法原論（総論）（一九二〇）	岡 田（庄）
岡 田 庄 作	刑法（一九五七）	
尾 後 貫 庄 太郎	新訂刑法講義（総論）（一九四八）	小 野
小 野 清 一 郎		

小野清一郎	新訂刑法講義（各論）（一九五〇）
小野清一郎	刑法概論（増訂新版・一九六〇）
小野清一郎、中野次雄、植松正伊、達秋雄	刑法（ポケット注釈全書）（第三版・一九八〇）
香川達夫	刑法講義（総論）（一九八〇）
勝本勘三郎	刑法要論（総則）（一九一五）
吉川経夫	改訂刑法総論（一九七二）
木村亀二	新刑法読本（全訂新版・一九五九）
木村亀二	刑法総論（増補版）（一九七八）
木村亀二	刑法各論（復刊・一九五九）
木村亀二編	体系刑法事典（一九六六）
木村亀二	犯罪論の新構造上巻（一九六六、下巻（一九六八）
草野豹一郎	刑法要論（一九五六）
久礼田益喜	刑法学概説（一九三〇、増訂版・一九四三）
小泉英一	刑法要論（総論）（一九四〇）
小泉英一	刑法総論（一九五七）
江家義男	刑法（総論）（一九五二）
斎藤金作	刑法総論（一九五〇）
斎藤誠二	刑法講義各論Ⅰ（一九七八）
佐伯千仞	刑法講義（総論）（改訂版・一九七四）
佐瀬昌三	刑法大意第一分冊（一九三七）、第二分冊（一九四〇）
沢登俊雄	刑法概論（一九七六）
莊子邦雄	刑法総論（一九六九）
莊子邦雄	労働刑法（総論）〔新版〕（一九七五）
正田満三郎	刑法体系総論（一九七九）
島田武夫	日本刑法新論（総論）（一九二四）
島田武夫	刑法概論（一九三四）

小野・各論
小野・概論

香川
勝本
吉川

木村・各論
木村

草野
久礼田

小泉

江家
斎藤

佐伯

莊子・旧版

島田

定塚道雄	刑法略説(一九五〇)	滝川(春)
滝川春雄	新訂刑法講義(総論)(一九六六)	
滝川春雄	「宮内裕」平場安治	
滝川春雄	刑法(法律学体系、コンメンタール篇)(一九五二)	
滝川幸辰	犯罪論序説(一九四七)	滝川
滝川幸辰	刑法講義(改訂・一九三〇)	滝川・講義
滝川幸辰	刑法各論(一九五一)	滝川・各論
滝川春雄	「竹内正」	滝川「竹内・各論
伊達秋雄	刑法各論講義(一九六五)	
伊達秋雄	刑法入門(一九六〇)	
團藤重光	刑法(法律学講座)(改訂版・一九五五)	
團藤重光	刑法綱要(総論)(改訂版・一九七九)	團藤
團藤重光	刑法綱要各論(増補版・一九七二)	團藤・各論
團藤重光	「平川宗信」	
中義勝	刑法各論(新版)(一九八〇)	中
中義勝	刑法総論(一九七二)	
中山次雄	刑法総論概要(一九七九)	
中山研一	口述刑法総論(一九七八)	中山
中山研一	口述刑法各論(一九七五)	中山・各論
西原春夫	刑法総論(一九七七)	西原
平野龍一	刑法総論Ⅰ(一九七二)、Ⅱ(一九七五)	
平野龍一	刑法概説(一九七七)	平野
平野龍一	刑法総論講義(一九五二)	平野・概説
平場安治	行政刑法(新版)(一九七八)	平場
福田平	新版刑法総論(一九七六)	
福田平	「大塚仁」	福田
福田平	「大塚仁」	
藤木英雄	刑法総論Ⅰ(一九七九)	
藤木英雄	刑法講義総論(一九七五)	藤木

藤木英雄	刑法講義各論（一九七六）	藤木・各論
不破武夫	刑法総論講義案（一九四九）	不破
不破武夫・井上正治	刑法総論（一九五五）	
牧野英一	刑法総論上巻（全訂・一九五八）、下巻（全訂・一九五九）	牧野
牧野英一	刑法各論上巻（一九五〇）、下巻（一九五一）	牧野・各論
牧野英一	重訂日本刑法上巻（一九三七）	牧野・重訂
宮崎澄夫	刑法総論（一九五〇）	宮崎
宮本英脩	刑法大綱（総論）（一九三二）	宮本
宮本英脩	刑法学粹（一九三二）	
泉二新熊	日本刑法論（総論）（増訂四三版・一九三三）	泉二
泉二新熊	日本刑法論（各論）（増訂四二版・一九三二）	泉二・各論
泉二新熊	刑法大要（増訂版・一九四二）	
八木（胖）	刑法総論（一九五八）	八木（胖）
安平政吉	改正刑法総論（一九五〇）	安平
吉田常次郎	刑法総論（一九五六）	吉田
板倉宏	企業犯罪の理論と現実（一九七五）	
井上正治	過失犯の構造（一九五八）	
井上祐司	行為無価値と過失犯論（一九七三）	
植田重正	共犯の基本問題（一九五二）	
植松正	刑事法研究一巻（一九四九）	
植松博士還暦祝賀	刑法と科学・法律編（一九七〇）	植松還暦
内田文昭	刑法における過失共働の理論（一九七三）	
大塚仁	間接正犯の研究（一九五八）	
大野平吉	共犯の従属性と独立性（一九六四）	
大森英太郎	刑法哲学研究（一九五四）	
小野清一郎	犯罪構成要件の理論（一九五三）	

小野 清一郎	刑罰の本質について・その他(一九五五)
小野博士還暦記念	刑事法の理論と現実(一)(一九五一)
香川 達夫	中止未遂の法的性格(一九六三)
勝本 勘三郎	刑法の理論及び政策(一九二五)
鴨良弼先生古稀祝賀論集	刑事裁判の理論(一九七九)
木村 龜二	刑法解釈の諸問題(一)(一九三九)
木村 龜二	刑法の基本概念(一九四九)
木村 龜二	刑法雑筆(一九五五)
木村 龜二編	刑法学入門(一九五七)
木村博士還暦祝賀	刑事法学の基本問題(上)(下)(一九五八)
草野 豹一郎	刑事判例研究一卷五卷(一九三四・四〇)
草野 豹一郎	刑法改正上の重要問題(一九五〇)
草野 豹一郎	刑事法学の諸問題(一)(一九五二)
草野 豹一郎	刑事法学の諸問題(二)(一九五二)
久礼田 益喜	新客観主義の刑法理論(一九三四)
斎藤金作先生還暦祝賀論文集	(一九六三)
斎藤金作博士還暦祝賀論文集	現代の共犯理論(一九六四)
斎藤 誠二	予備罪の研究(一九七一)
佐伯 千仞	刑法に於ける期待可能性の思想(上)(下)(一九四七・一九四九)
佐伯 千仞	刑法における違法性の理論(一九七四)
佐伯 千仞	法曹と人権感覚(一九七〇)
佐伯千仞博士還暦祝賀	犯罪と刑罰(上)(下)(一九六八)
芝原 邦爾	刑法の社会的機能(一九七三)
下村 康正	共謀共同正犯と共犯理論(一九七五)
莊子 邦雄	刑法の基礎理論(一九七二)
莊子 邦雄	犯罪論の基本思想(一九七九)

小野還暦

鴨古稀

木村還暦

草野・研究

斎藤還暦

斎藤還暦・共犯

佐伯還暦

莊子・基礎理論
莊子・基本思想

莊子 邦雄 近代刑法思想史序説(一九八三) 莊子・序説
莊子邦雄・小橋安吉訳「カール・エンギッシュ・刑法における故意・過失の研究」(一九八九) 莊子他訳・エンギッシュ

莊子 邦雄 近代刑法思想史研究(一九九四) 莊子・研究
莊子邦雄先生古稀祝賀 刑法の思想と理論(一九九二) 莊子・古稀

曾根 威彦 刑法における正当化の理論(一九八〇)

滝川 幸辰 刑法史の或る断層面(一九三三)

滝川 幸辰 刑法雑筆(一九三七)

滝川 幸辰 刑事法判決批評Ⅱ(一九三七)

滝川 幸辰 刑法の諸問題(一九五一)

滝川先生還暦記念 現代刑法学の課題(上)(下)(一九五五)

団藤 重光 刑法の近代的展開(増訂版・一九五二)

団藤重光博士古稀祝賀論文集一、四卷(一九八三、八五)

中 義勝 間接正犯(一九六三)

中 義勝 誤想防衛論(一九七二)

中 義勝 論争刑法(一九七六)

中野次雄判事還暦祝賀 刑事裁判の課題(一九七二) 中野還暦
中山研一「西原春夫」藤木英雄・宮澤浩一編 現代刑法講座一(一九七七)、二(一九七九)、三(一九七九)

西原 春夫 間接正犯の理論(一九六二)

西原 春夫 交通事故と信頼の原則(一九六九)

西原 春夫 刑事法研究二(一九六七)

日本刑法学会 刑事法講座一、三(一九五二)、七(一九五四)

日本刑法学会 刑法講座一、四(一九六三)

日沖博士還暦祝賀 過失犯(1)(2)(一九六六)

平野 龍一編 現代法と刑罰(一九六五)

平野 龍一 刑法の基礎(一九六六)

平野龍一先生古稀祝賀論文集上・下(一九九〇・一九九二)	平野古稀
平場安治 刑法における行為概念の研究(一九六六)	平場還曆
平場安治博士還曆祝賀 現代の刑事法学(上)(一九七七)	
福田 平 違法性の錯誤(一九六〇)	
福田 平 目的的行為論と犯罪理論(一九六四)	
福田平・大塚仁博士古稀祝賀 刑事法学の総合的検討(上)(下)(一九九三)	福田・大塚古稀
不破武夫 刑事責任論(一九四八)	
不破武夫 刑事法上の諸問題(一九五〇)	
藤木英雄 過失犯の理論(一九六九)	
藤木英雄 可罰的違法性の理論(一九六七)	
堀内捷三 不作為犯論(一九七八)	
牧野英一 刑事学の新思潮と新刑法(増訂四版・一九一九)	
牧野英一 刑法研究一〇(一九二九)	
牧野英一 刑法における重点の変遷(一九二九)	
牧野英一 刑法における法治国思想の展開(一九三二)	
牧野教授還曆祝賀 刑事論集(一九三八)	牧野還曆
宮本教授還曆祝賀 現代刑事法学の諸問題(一九四三)	宮本還曆
森下 忠 緊急避難の研究(一九六〇)	
武藤文雄 刑法における概念の規範的構成(一九三四)	
安平政吉 人格主義の刑法理論(一九三八)	
安平政吉 刑法改正の基本理論(一九三六)	
吉田 常次郎 刑法上の諸問題(一九六二)	
綜合判例研究叢書 刑法一・二六(一九五六・六五)	総判刑
西原春夫「宮澤浩」阿部純「板倉宏」大谷實「芝原邦爾」編	
判例刑法研究1(一九八〇)、2(一九八二)、3(一九八〇)、4(一九八二)	
注釈刑法(総則一・二)	団藤・注釈
団藤 重光編	

* なお、著者の「リスト」木村亀二編・刑法学入門、「概括的故意と因果関係の錯誤」東北法学会雑誌一一号、「故意の体系的地位」刑法雑誌一四卷一号、「刑法解釈論と存在論」井上正治博士還暦祝賀論集（一九八二）、「特別刑法犯と責任」伊藤栄樹・小野慶二・莊子邦雄編「注釈特別刑法」第一卷（一九八五）については論文名のみで引用した。

(b) 雑誌のうち、左のものは、次の略語例によって引用した。

刑法	刑法雑誌	法学	(東北大学)	法学
警察研究	警察研究	法協	法学協会雑誌	
警察学論集	警察学論集	法経	(岡山大学)	法経学会雑誌
国家学雑誌	国家学雑誌	法研	(慶応大学)	法研学会雑誌
志林	法学志林	法時	法律時報	
ジュリ	ジュリスト	法政	(九州大学)	法政研究
早法	早稲田法学	法叢	法学論叢	
同法	同志社法学	法曹	法曹時報	
阪法	阪大法学	法哲	法哲学年報	

四 卷末には、事項索引、判例索引をかかげた。

凡 例

目次

はしがき
凡例

第一編 刑法の基礎理論

第一章 刑法の意義

- 一 刑法の定義(3)
- 二 刑法の種類(4)
- 三 刑法の総則と各則(5)
- 四 刑法典の沿革(6)

第二章 罪刑法定主義の原則

- 一 罪刑法定主義の原則の意義(9)
- 二 罪刑法定主義の原則の思想的系譜(10)
- 第三章 刑法の法源および解釈

- 一 刑法の法源(15)
- 二 刑法の解釈(17)
- 三 刑罰法規の明確性と解釈(21)
- 第四章 刑法の適用範囲

- 第一節 刑法の時間的適用範囲
- 一 刑罰法規不遡及の原則(26)
- 二 犯罪後の法律による刑の変更(27)
- 三 限時法と刑の廃止の存否(31)

目

次